






















様へ

説明看護師(外来)






















看護師(病棟)

月日	月 日	月 日	月 日	
経過	入院日 (治療前日)	当日術前	当日術後	術後 1 日目
目標	心身ともに安定した状態で手術を受けられる 治療に対する不安を表出できる		術後合併症を起こさない (出血、深部静脈血栓症、肺炎、 縫合不全、感染、腸閉塞) 合併症予防のためのリハビリ (歩行訓練、呼吸訓練)がおこなえる	
検査	身長、体重測定		 採血	
食事	入院後流動食 夕食後絶食、21 時以後絶飲食 経口補水液は、麻酔科の指示で服用		絶飲食 主治医が飲水開始を判断	
	朝食は 自宅で	 	/	
処置・観察	リストバンドを 装着します (退院日まで) 弾性ストッキングの サイズを測定し お渡します	点滴の針を留置します  時間になれば、 看護師が手術室に ご案内します	手術後以下の挿入物、 装着物があります ・酸素マスク → 取り外します ・心電図モニター → 取り外します ・点滴の管 → ・背中のチューブ (鎮痛剤) → ・創部の管 (ドレーン) → ・尿道カテーテル → ・フットポンプ (血栓予防) → 取り外します  創部の観察、処置を行います	
	状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります			
注射・内服	 持参薬、お薬手帳を 看護師にお渡し ください ・21 時下剤を服用します	 手術室で点滴を 開始します (手術が午後の場合は、 病棟で点滴を 開始します)	以下の点滴を行います  ・持続点滴 → ・抗菌薬	
行動・リハビリ	 シャワー浴 洗髪をします 	 以下の手術準備をします ・手術着に着替え ・弾性ストッキング装着 ・入れ歯、アクセサリー、時計等の取り外し	 午前中 全身清拭し、手術着から  パジャマに着替えます	
	 制限はありません	 翌朝まで ベッド上安静です	 付き添いのもと、リハビリを 開始します	
説明	 医師・麻酔科医より説明(外来又は入院時) ・治療計画について ・手術について ・麻酔について  病棟・手術室看護師より説明 ・入院生活について (パスシートを使用) ・手術について  薬剤師より説明 ・持参薬確認 ・使用薬剤について	 医師より説明 ・手術結果について  看護師より説明 ・術後の注意点について ・安静について ・痛み止めの使用方法につ いて		

*** 入院に際してこの用紙を必ずお持ちください。**

* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。また、定期的に栄養状態の再評価を行い、計画を見直します。

* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともありますので、予めご承知ください。

月日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日					
経過	術後 2～3 日目		術後 4～5 日目					
目標	術後合併症を起こさない (出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、イレウス) 合併症予防のためのリハビリ(歩行訓練、呼吸訓練)がおこなえる		退院後の日常生活上の注意点が述べられる					
検査	 状況に応じて採血  レントゲン撮影							
食事	主治医が食事再開時期を判断 腹部の状況をみながら、流動食、粥食、常食に移行		退院日は朝食後退院です					
								
処置・観察	以下の挿入物があります ・点滴の管 → 点滴が不要となれば抜去します ・背中チューブ(鎮痛剤) → 不要となれば抜去します ・創部の管(ドレーン) → 排泄の状況を見て抜去します ・尿道カテーテル → 術後 2～3 日で抜去します  創部の観察、処置を行います →		退院時にリストバンドを外します					
	 状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります							
注射・内服	以下の点滴を行います  ・持続点滴 →							
リハビリ	 状況に合わせて、全身清拭、洗髪、足浴を行います 		 創部の治癒状況に合わせてシャワー浴を再開します (週 3 回、病棟毎日が異なります)					
	 リハビリを継続します  尿道カテーテル抜去後はトイレで排尿できます		 (退院日) 朝食後退院です					
説明			 医師より説明 ・退院後の治療計画、療養上の留意点について  看護師より説明 ・退院後の療法生活について(退院療養計画書をお渡しします)					

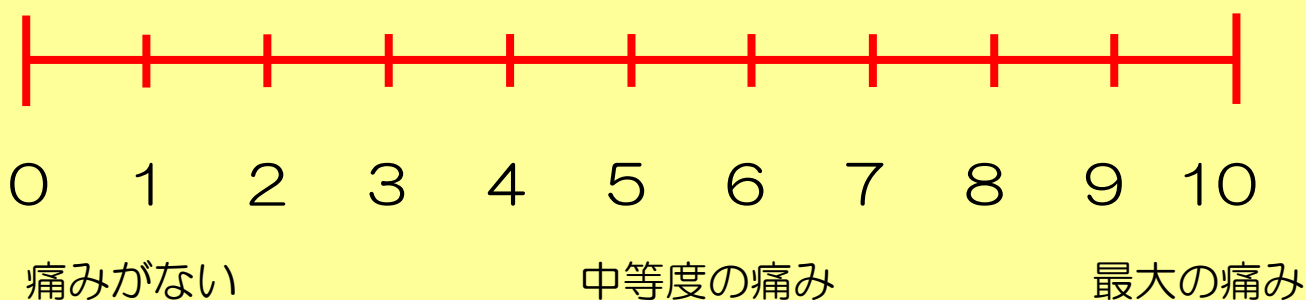
手術後の傷の痛みを教えてください

講習を受けた麻酔科医・看護師・薬剤師・臨床工学士で構成された術後疼痛管理チーム（APS）チームが、患者さんの傷の痛みに対して、手術前から計画を立て、傷の痛みが軽減するよう取り組んでまいります。

実際の傷の痛みに対して、NRS(Numerical Rating Scale)：痛みの評価スケールを使用します。0 から 10 までの 11 段階です。

👉 **手術後、どの程度の痛みかを数値で教えてください**

10 を最大の痛みとした場合
今の痛みはどのあたりですか



APS チームがサポートします。

よろしく申し上げます。

